



「20歳の集い」に寄せて

先日1月12日(月)は河内長野市でも「20歳の集い」が挙行されました。実は今年20歳になる子どもたちは、自分が担任として最後に受け持った6年生でした。成人式前日に何人か集まって話をしたのをきっかけに、成人式に「お祝いに行くね。」という話になり、みんなの門出を祝ってきました。33人いたクラスの子どものほとんどの子に会うことができ、変わらず元気で素敵な笑顔で過ごしているのを見て、とてもうれしく感じました。

と同時に子どもたちの成長を一緒に喜べる仕事のありがたみをもものすごく感じる一日でした。カッコいいスーツやきれいな振袖に身を包み誇らしげに立っている姿に感動したのと同時に、変わらない優しそうなみんなの表情を見て取ることができ、思わず8年前にタイムスリップしたかのように、いろんな思い出がよみがえりました。

行事があるたびに必ず円陣を組み、どんな大会も行事もみんなの掛け声で始まったあの声、クラス対抗全員リレー、放課後近くの公園でみんなが集まり練習したドッジボール大会、水泳大会、運動会、レクリエーション大会、百人一首大会・・・様々な大会をクラス対抗で戦った思い出、修学旅行に行ったとき知らぬ間にクラス全員で「お化け屋敷に行こう。」と約束されていた思い出、合唱コンクールでの歌声・・・本当にいろんな一年の思い出が走馬灯のように思い出され、特に最後の合唱コンクールで「絶対にこの歌を歌いたい。」と言って子どもたちが選んだケツメイシの「友よ～この先もずっと・・・」(当時のクレヨンしんちゃん主題歌)の歌に泣かされたあの日。卒業式会場に向かう前の教室でも円陣を組んでみんなの士気を上げてから臨んだ卒業式。最後に呼んだ名前にしっかり顔を見て「はい」と答えてくれたあの瞬間。全て昨日のように思い出されました。

学校にはいろんな行事があります。行事は行事として終わらず子どもたちのいい思い出となって色褪せず残っているんだなと感じました。何年かたって振り返ってみるとその当時の思い出が行事と一緒に思い出され、ほっこりとした気持ちになります。それが年間のたわいもないある一つの行事や出来事だったとしても、その学年にまつわるエピソードがあり、常に「楽しかった」「がんばってよかったな」などその当時に頑張ろうと思った気持ちがこみあげて来ました。私自身も「あのときの気持ちを忘れたらあかんなあ。」と改めてしみじみと感じたこの「20歳の集い」の日でした。

この思い出の中に自分も一教室で過ごした仲間として入れることがありがたくうれしい気持ちになりました。こんな思い出が働いた年数分だけあります。

天見小学校の子どもたちも、年間にいろんな行事があり、その都度に子どもたちの思い出が心の中に積もっていきます。そして何年か後、みんなで出会えた時に、「あの時、こんなことを頑張ってたね。」だとか、「みんなで協力して〇〇を成功させたね。」などの気持ちにふと懐かしく思い返したり、その当時の頑張りが、今の「時」を生きるための心の糧となればよいなと思いました。

学校の先生になるのは、私の小さいころからの夢の一つでもありました。どんな教師になりたいと思ったのか・・・それは、活動している時間の半分を過ごす学校で、一番には「誰もがこの教室に来て居心地のいい場所を作りたい。」そういう教師になりたいとこの道に進みました。学習もちろん大切ですが、仲間を大切にしたり「頑張った」後の気持ちよさや、ほめられる心地よさ、友だちの違う意見や考え方を認め合うことで自分も成長する、自己肯定感を上げたり・・・すべてのことが子どもたちの生きる糧と

なるようなそんな学校、そんな教室を作りたいと、それは新任のころから変わらず持ち続けている自分の信念でもあります。皆さんにとって教室がどんな場所だったか、いろんな年のいろんな教室があったかと思います。そこには、各先生の得意とするもの、大切にしたいと思っているものが反映された教室になっていたことでしょうか。互いを信じ、絆を深められる教室という場所を、私は今でもあこがれと敬意を感じるのです。

体験こそ、学習の真骨頂！

天見小学校の特長は、体験活動がとても多いことです。それが自慢できる学校教育方針でもあります。1月26日(月)には6学年中、5学年がいろんな体験を行いました。

1・2年生は、聴覚障がいをお持ちの方にゲストティーチャーに来ていただき、いろんな話を聞かせていただきました。聴覚障がいをお持ちの方がどんな時に困るか、どんなふうに支援してほしいかというお話から、これからどんな工夫で豊かな生活ができるかなど、自分の生活に寄せた実体験をお話しいただいたり、指文字や、簡単な手話も教えてくださったりしました。「子どもたちが積極的に手話を覚えようとしてくれていたのがうれしかったです。」と後で来てくださった方が、話してくださっていました。

3年生はキノコの菌の植え付けをしました。クヌギの木は夏休みのころに切り出して乾燥させてから使います。地域の方が用意して下さり、木に生えている苔を金たわしで落とす作業から、菌を植え付けるところにドリルで穴をあけて、そのあと金づちでこんこんと菌を埋め込む作業を経験しました。こんな経験は、天見小学校だからできる経験で、子どもたちも大人の私たちも、スーパーで売っているシイタケしか知りませんでした。こうやってシイタケを育てていくのかと経験したからこそ知れたことがたくさんあります。この体験のために地域の方が夏から木を切り、当日も朝からすべての木の苔を取ってくださるなど、本当にいろいろ準備してくださいました。植えたシイタケは2～3年後に収穫できるそうです。できるだけ日光の当たらない日陰のじめっとしたところに置いています。「たくさんシイタケができますように。」と思います。

4年生はオンライン授業で、乾電池を作っていました。これからの教育の在り方だなあと感じます。遠く離れていても、画面を通して、みんなの様子を見ながら教えることができ、4年生でありながら乾電池を作ることができるのですからすごいですね。

5年生も、オンラインで、大阪狭山市立南第三小学校の子どもたちと、一緒に授業を行いました。授業では自分たちの総合で調べていることを発表しあい、それに対してアドバイスや工夫・感想を伝えあったりしました。南第三小学校の子どもたちはSDGsのことを壁新聞で発表、天見小学校ではパワーポイントを使いながらユニバーサルデザインのことを発表しました。天見小学校は少人数の学校ではありますが、4年生が高知県の大橋小学校とつながり互いに調べている災害について深め合ったり、5年生がお互いの発表を聞いてともに学びを広げたり、とても実のある繋がりもできていると感じました。後で南第三小学校の校長先生からもお電話をいただき、「とてもいい交流ができた。」と喜んでおられました。

これからはICTがどんどん発達して、このように他の学校とも連携を取ってまなび合える時代がやってくるでしょう。それも輪を広げるために大事なことですし、そして、地域の方がじかに教えてくれるシイタケ栽培の仕方の学習も街の中ではできない取り組みです。何より人と人がじかに触れあうことで感じる温かみを子どもたちには多分に学んでほしいと思います。1月27日(火)には、3年生が千早地区で農業を営んでいる門林さんのところに行かせていただき、畑で農作物を育てたり養蜂を間近で見せてもらい、大変なことや工夫していることを生の声で聴かせていただきました。

本物から知識を得る、体験から自分事として体に覚える、交流していろんな方法に触れる、他の学校の頑張りを自分たちも触発されるなど、本当に天見小学校として、いい取り組みがたくさんできていることは、それにかかわってくださる方がいらっしゃるからであって、その方たちには感謝の言葉しか出ません。

天見小学校とかかわってくださっている数多くの皆さんに校長として心から「ありがとうございます。」を伝えたいです。